



ほんものを たべよう

提出日	3/14	3/15	3/16	3/17
配達日	3/21	3/22	3/23	3/24
翌々週配達日	3/28	3/29	3/30	3/31

オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

Alter Weekly Order Catalogue

2017.3月4週号

シルク製品 SILK

女性を温かく守り、リラックスさせる シルクインナー

肌触りよく、締め付けがなく、むれず、サラサラで快適。

(株)PeaPod

文責 西川 榮郎(NPO 安全な食べものネットワーク オルター 代表)



米倉 紳子代表と釘寄 浩子さん(写真右から)

こだわりのシルク製品

PeaPodの米倉 紳子代表と釘寄 浩子さんは「締め付けないこと」「肌にとことん優しいこと」「天然繊維のよさを最大限に生かすこと」の3つのコンセプトを大切に、シルク製のインナーウェアや布雑貨を作っています。

肌触りを最優先

シルクは繊維の中で最も肌に親和性が高いと言われます。アミノ酸組成が肌に近いので、刺激が少なく肌に優しいのです。

PeaPodでの生地選びは、何よりも肌触りを最優先にしています。絹原糸は最高グレード「エクストラグレード」のものを使用。これらは卓越した紡績技術により、光沢としなやかさを併せ持つ絹紡糸になります。それを日本の職人が丁寧に織り上げ、縫製しています。このなめらかな肌触りの生地は、通常は高級婦人服地として使用されており、インナーウェアにはとんでもなくもったいない程の品質のものです。

そして、たくさんのシルクに触れてきたスタッフが実際に手に触れて、少しでも「これちょっとイヤかも!？」と感じた素材は使いません。

小さな刺激もなるべく無くす

縫い目を外側に出し、タグなどは肌に触れないところへ付けるなど、肌触りを損なうものは最大限に排除しています。

ゴムの締め付けからの解放

インナーにゴムを使用すると、その弾力性から元に戻ろうとする力が働き、窮屈さを感じる人が多く、身体にも実際に負担となります。PeaPodでは、ゴムを使用せずに女性の丸みのある身体に適度に添うインナーウェアにするために、ストレッチシルク生地を使用しています。ストレッチ性を持たせるためのポリウレタン糸は、極細い糸なのでシルク糸の間に埋もれ、肌に直接触れることはありません。インナーはゆるすぎず、ぴったりすぎない適度な着圧が重要なポイントです。

PeaPod製品は、シルクのよさを最大限に生かしながら、シンプルで自然な快適さをニットシルクを使うことで実現しています。「まるで着ているのを忘れるような感覚」「脱いだ時に下着痕がないのに、一番驚いた!」という感想も届いています。

冷えにはシルクが一番

シルクはとても保温性の高い繊維です。その理由は、絹糸の構造が白くマの毛と同じようにストロー状になっていて、糸の中の空洞に体からの熱を逃さずため込むので、温かく冷えないのです。

湿度調節機能が肌に嬉しい

シルクの放湿性は綿の1.5倍と言われています。汗をかいてもさっと余分な水分を逃し、一年中サラサラで快適に過ごせます。必要以上に保水しないので汗冷えも防ぎ、冷えが大敵な女性には一年を通して強い味方です。

また、綿や麻などの植物性繊維と違い、乾燥し過ぎず、適度な湿度も保ってくれるので、カサカサ感も無く、常にしっとりした肌ざわりです。

自然の抗菌 & 紫外線防止の力

シルクは繭の中の命を守るため、シェルターの役割を持っていて、活性酸素を抑える抗菌力や、紫外線の害から守るUV効果を持った万能の繊維と言われ、肌に直接身につける繊維として最適だと考えられています。

女性の、女性による、女性のための会社

PeaPodを立ちあげた米倉さんと釘寄さんの出会いは、都内代々木公園で活動している「原宿おひさまの会」でした。ちなみに「原宿おひさまの会」は、ワクチンの問題性を世に問われている小児科医、毛利 子来医師と患者であった保護者が始めた「自主野外保育活動の会(親たちが交代で保育をし、野外で毎日体を動かして過ごす)」です。毛利さんには私がロングライフミルクのことで厚生省に対し、抗議のハンガー

ストライキを行ったときには、医師として見守っていただきました。

四季を通じて親子ともに野外で過ごす中、子どもたちのアトピー・喘息や、母親たちの不調などと向き合い、冷えから体を守ることも含め、下着を始めとする衣類の装備が大切だと学びました。特に妊産婦さんは体を冷やしてはいけないということも。自主保育活動で出会った母親たちは、真冬でも一日外で過ごし、忙しい育児と家事で自分を省みる時間もなかなかなく体を冷やしがちでした。かといって女性の体によい、動きやすく血行を妨げない(締め付けない)インナーウェアが当時の日本にはなかったのです。「ないのなら、自分たちで作ろう!」と、マタニティ期~産後・授乳中まで着られる多機能シルクインナー作りを始めました。

アパレル出身だった米倉さんが企画・開発を担当し、釘寄さんが製品を広めるための広報・販売を担当。2002年頃からそれが口コミや贈り物利用としても広まり、ロングセラー製品となりました。そして2008年には株式会社PeaPodを創業。

PeaPodのスタッフは社員、工房スタッフ、デザイナーまで、みんな子育て中の母親です。女性の女性による女性のための会社です。生きるための基本「自分の健康は自分で守らなきゃ」、他人任せではない「暮らしの中でできる“衣”でのセルフケア」がキーワードです。これは育児を通して学んだ「自分の健康を作れなければ子どもの健康も守れない」という教訓でもあります。

そんな想いから作られるシルクインナーウェアをはじめ、柔らかく使い勝手のよい無漂白ネルナプキン(無漂白ならではの柔らかさと、起毛加工で温かく吸収もよい)、同じ無漂白ネルの母乳パッド、より敏感な顔のお肌にも優しいシルク&リネンのマスク、リネン100%ならではの速乾性で、抗菌性が高く和食器に合うサイズに仕上げたキッチンクロスなど、女性の視点で開発を続けています。

オルターとの出会いは、2016年日比谷公園で行われた「土と平和の祭典」でした。

Peapodのシルクインナーと布雑貨

●シルク原糸から糸になるまで

伸縮性のあるニット生地に適したシルク糸とは、柔らかさとしなやかさを持つ糸です。とりわけ、インナーウェアという、肌に直に触れ、なおかつ頻繁な洗濯にも耐えるニット生地に仕上げるため、PeaPodの生地は絹紡糸というシルク糸を使って作られています。

繭から直接繊維を引っ張り出して作る生糸(こちらは主に着物などの織物に使われます)に対し、絹紡糸は、生糸を取り出す際の副産(蚕が糸を吐き始めた最初の部分と履き終わりの部分)を使い短く切り分けられたこれらの繊維を紡いで作ります。そのため、何度もまっすぐに

繊維を引き伸ばし、撚り合わせ、ネップや節をていねいに取り除きながら、幾つもの工程を経て光沢としなやかさを兼ね備えた糸が完成します。

これらは原料の副産を持つ特性を知り尽くし、ベストミックスしながら平均的な品質を保った糸を作るという紡績工場の卓越した技術によるもので、生糸とは違うよさを持つ柔らかな絹紡糸で作るニット生地が生まれるのです。

・原糸のグレードは最高グレードであるエクストラグレードを使用(本体生地のみ。一部、裏地等はこれに限りません)原産国 中国、ブラジルなど

●編み工程

絹紡糸を使用する目的は柔らかい生地を作るためですが、生糸のように光沢はありません。そのため、できる限り目を詰めて編み立てることで、高密度で光沢のある傷の少ない生地に仕上げられています。

●縫製

職人の技術の高さを考え、国内の縫製工場で作っています。消費者のニーズをフィードバックするためにも、国内工場は信頼がおけます。縫製工場の職人さんのほとんどが家庭の主婦なので、その工場では一律の就業時間や規則ではなく、それぞれの働きたい時間や日数に合わせ、無理なく働き続けられるシステムを採用しています。そのため、様々な家庭の事情があっても、辞めていく方がほとんどないそうです。PeaPodの製品は、こうして作り手が生き生きと気持ちよく働くなか、作られています。

●染め

化学染料を使用しています。シルクは動物性繊維のため、他の繊維に比べ染まりやすく、染料の量や工程が少なく済みます。

●家庭での洗い方

シルクを洗える自然丸「液体石けん」「マルセル」宮本製作所「ベビーマグちゃん」などで洗えます。

ネットに入れ、弱水流で洗ってください。表面がつるつるしたシルクはぬるま湯でゆすぎ洗いをするだけでもかなり汚れが流れ、さっぱりします。脱水は短時間で、乾燥は日光に当て過ぎないようにすると、劣化や変色を防げます。

市販のシルク製品の 問題点

シルク製品の品質にはかなり幅があり、シルクを知っていると、お値段=品質であることが分かってきます。安いシルクは、縫製や生地そのものの強度、色落ち(染色)などの問題があり、やはりお値段なりの品質になります。また「シルク」と謳いながら混率を見ると、全体のほんの数%しか使用されていない、コーティングだけなどの製品も多数あります。